

知音都市交流

をご存じですか

中野市では姉妹都市・友好都市の他に知音都市交流を推進し、市民団体の交流活動を支援しています。知音都市とは日本初の流行歌「カチューシャの唄」の誕生に携わった4先人（島村抱月、相馬御風、松井須磨子、中山晋平）の縁で交流している浜田市、糸魚川市、長野市および中野市のことを言います。

各市の都市交流団体は、毎年「カチューシャの唄」知音都市実務担当者等会議を開催し、事業報告や交流事業などを協議しています。相互の文化芸能を学び、先人の偉業を称え、ふるさとを再認識することを目的として交流を続けています。



知音都市交流シンボルマーク

知音都市交流は、島根県の旧金城町（現在の浜田市）の提唱により平成元年より続いている市民交流です。平成21年には交流のシンボルマークが制定され、昨年からはブログを開設し知音都市情報を発信しています。

知音都市交流ブログホームページ

<http://blog.canpan.info/tiin-kanagi-001/>



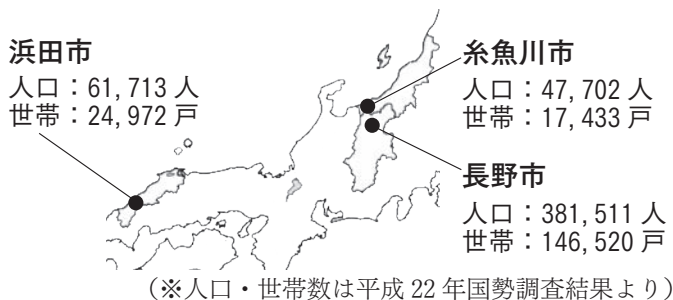
相互の文化芸能を学び、先人の偉業を称え、ふるさとを再認識することを目的として交流を続けています。



【作詞】
相馬御風のふるさと

新潟県
糸魚川市

ヒスイのまち糸魚川市には2つの国立公園（上信越高原、中部山岳）と3つの県立公園（久比岐、白馬山麓、親不知子不知）があり、その豊かな自然は訪れた人を圧倒し、魅了します。また、「糸魚川ジオパーク」は、ジオ（地球）の貴重な地質の宝物に親しみ、学ぶことのできる場所として、日本初の世界ジオパークに認定されました。



【作詞】
島村抱月のふるさと

島根県
浜田市

現在の浜田市金城自治区では、伝統芸能「石見神楽」が伝承され神社の祭礼などの際に奉納されています。また、町内には、音楽を通じた交流活動拠点「夢の音村」があり、アマチュア音楽グループ「サウンドファイブ」を中心に、40年を超える音楽活動を続けています。



【歌】
松井須磨子のふるさと

長野県
長野市

長野市松代町は、戦国時代の武将真田信之（幸村の兄）を初代とする真田家が代々藩主を務めた城下町です。また、幕末には勝海舟や坂本竜馬の師としても有名な佐久間象山を輩出しました。このような歴史ロマンに彩られた長野市松代町では毎年10月に真田十万石行列が行われ、知音都市も参加しています。



「フレンズ」会員募集

中野市民都市交流会「フレンズ」は知音都市のほかにも姉妹都市、音楽姉妹都市などと温かく楽しい交流を行っています。

都市間交流の楽しさ、感動を一緒に共有してみませんか。お気軽にお問い合わせ下さい。



問い合わせ先 政策情報課統計交流係 ☎ (22) 2111 (内線402)

山岸幸平さん
からのご紹介



○自己紹介

日本一周を目指して、一人で旅を続けています。きっかけは、本の主人公がさまざまな土地を旅すること、自分の成長に繋げていく姿に感動したこと。自分も同じように成長したいと憧れて旅に出ました。

愛車の軽自動車で出発し、北海道・東北を巡り、中間地点の長野県に戻ってきました。3カ月で8千キロを走破し、これから西日本の各地を巡る予定です。

カメラで写真を撮ることが楽しみの一つで、NHKの連続テレビ小説「あまちゃん」の撮影地である岩手県久慈市で見た景色は、同じ日本とは思えない感動を味わうことができました。



▲高社山を見るとき自分の家に戻ってきた気持ちになります

現地の人と会話をすることが一番の勉強になり、東北の被災者の方の話を知ると、いかに自分が各地の実情を知らないのかわかるようになりました。

○中野市のイメージについて
キノコやおやきがおいしいイメージがあります。また、高社山がとても好きで、全国のどの場所に行っても懐かしくなります。高社山を見ると、自分の故郷に帰ってきた気持ちになることができます。

○今後チャレンジしたいこと
旅先での出会いを大切に、もっと現地の方と触れ合いながら自分の成長に繋げていきたいです。



かない たかゆき
金井 敬幸 さん
(行政区：金井)

池田市長の

わくわくレポート

vol. 3



横浜で中野市の魅力をPR

先月、横浜財界人の方に中野市をプレゼンテーションする機会を得た。中野市がどのような所なのかを空間軸、時間軸で説明しながら、世界にも類を見ない地であることも

に、自然と文化にあふれ、豊かな地であることを披露した。これから始まる信越9市町村広域連携観光開発による「千年風土の豊穡の地 信越自然郷」が、ワールドワイドに見ていかに素晴らしい構想であり、これからの可能性を秘めた地域であるかを訴えてきた。

中野市は有史以来、北信地域の要の地として、そのポテンシャルを生かし、政治・文化・経済の要衝の地として発展してきた。私自身も故郷中野市の素晴らしさを日々実感しているところであり、なかなか上手くお伝えすることはできなかったが、

エノキタケ生産量日本一、シャクヤク生産日本一、かつてはアスパラガス生産日本一、シャインマスカットに



代表されるブドウをはじめとした多様な果物生産の集積地であり、四季のはっきりした類まれな地であることを訴えた。

人口が減少する中で、これから私たちが取り組まなければならない本質的な戦略目標は人口の増加である。一つは交流人口による人口の社会増加、もう一つは子どもを育てやすい環境づくりによる自然増加。これらを実現するために、都市基盤・社会環境整備、楽しく暮らせるまちづくり、コミュニティづくりなど都市としての魅力をどのように創出できるかが重要である。やらなければいけないことは山積している。そして、これらはどうしても市民の皆さんと意思を一つにして、協働で取り組まなければ、前に進まないことばかりである。

これからの機会があれば、積極的に中野市のシティーセールスを展開したい。域外のお客様に中野市が提供できる新たな「価値」。他都市との競合といった観点から脱してより高い「価値」を見出し提供すること。提供する価値に対してより高く評価してくれるお客様を選び、フルセットで中野市の魅力を売り込みたい。